

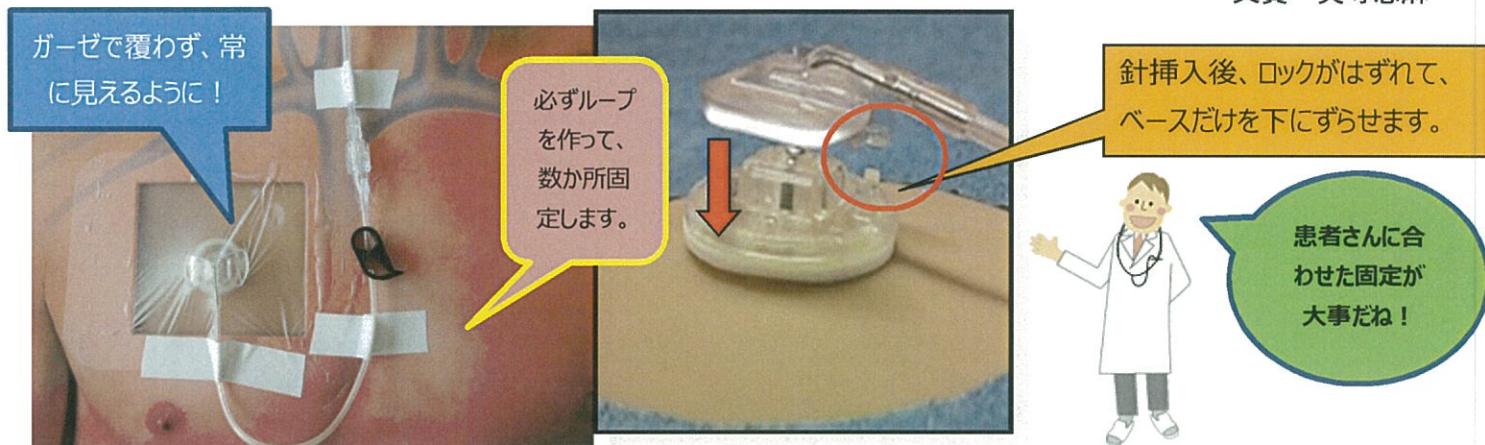


平成 28 年 9 月 26 日発行

化学療法委員会です。

ポート針の院内採用製品が変更となりましたが、皆様固定はしっかりとできていますか？ポート針刺入部は、末梢と同様に透明ドレッシング材のみで覆い常に刺入部の観察ができるよう努めましょう。刺入部の確認が異常の早期発見につながります。また、患者さんの体型により針の浮きが気になる場合は、以下の写真参照で枕ガーゼ使用時と同様の固定が可能になります。詳しくは、各部署に置かれている「化学療法実践マニュアル」に掲載されています。化学療法以外のポート管理にも役立つと思いますのでぜひ参考になさってください。

化学療法委員会委員長 渡邊伸和
文責 奥寺志麻



(医局から)

平成 28 年 9 月 1 日現在の青森厚生病院の常勤医師の人数は 9 人です。

たぶん、みなさんは顔を見れば誰がだれかはわかると思います。では、定期で当院に応援に来ていただいている非常勤医師の数はどれくらいでしょうか？14 人です。「そんなにいたのか！？」と驚く人もいるかもしれません。たぶん、非常勤の先生達は特定の時間や場所でしか働くことがなく、みなさんの知らないところで診療に携わっていただくことが多いからです。日当直業務、手術・麻酔の応援、外来の診察や検査業務、病理診断を主に手伝っていただいている。さらに、診療応援のために不定期で来て頂く先生もたくさんいます。

全国的に、医師をはじめ病院のスタッフは慢性的な人数不足に悩んでいます。青森厚生病院も例外ではありません。そんな中で、当院も弘前大学医学部や岩手医科大学医学部からの手厚い支援、医師派遣会社からの紹介等々、そして、さらに公私にわたる様々なコネクションをフルに利用して医師の確保に努めています。

どんな組織においても、働く人が増えるといろんな意味で活気が生まれます。病院も同様だと思います。当院では平成 26 年には整形外科が新規に開設し、さらに来年度からは青森県立中央病院から森田先生をお迎えすることになります。青森厚生病院は今後さらに活気が溢れる病院に変身すると思います。そのためにも、今後もみなさんのご協力を何卒お願いいたします。

(渡邊伸和 記)